
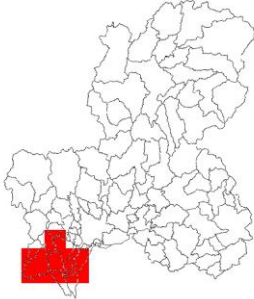


ナラガシワ		<i>Quercus aliena</i> Blume	絶滅危惧Ⅱ類
			ブナ科
選定理由	県内では産地に限られる稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅に直結するため。		写真(高野裕行)
形態の特徴	落葉高木。樹皮は不規則に割れ、淡灰褐色。成葉はやや革質-厚い革質、上面は緑色で無毛、下面は灰白色、帯灰白色星状毛を密布、葉柄はやや長い。葉身は倒卵状楕円形-倒卵形、急鋭頭-鋭頭、疎らな波状-深波状の鈍-鋭鋸齒縁、葉脈は12-14、基部は広いくさび形。花は4月。堅果は当年秋に暗茶褐色に熟し楕円状-長楕円状球形、殻斗は杯状、総苞片は覆瓦状に圧着。		
生態的特徴	西日本の広葉樹林にやや普通に生え、高木層を形成する。		
分布状況	岩手・秋田以南の本州、四国、九州。朝鮮(済州島を含む)、中国、東南アジア。県内では県南の南西部に稀に点在し、個体数は多くない。主に西日本に分布し、中部地方以東には少ない。寺社や庭園に植栽もされる。		
減少要因	山林管理の停滞に起因する樹林化、林冠の鬱閉化のため生じる日照不足からの生育不良。		
保全対策	山林管理の促進による林床照度の維持。		
特記事項	コナラにやや似ているが、葉は大きく、堅果も大きい。葉柄のほとんどないカシワやミズナラと異なり、はっきりとした葉柄がある。		
参考文献	Flora of Japan. Volume II a. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Fagaceae H. Ohba		

文責: 高野裕行